

女性が拓く新時代 NO WOMEN NO FUTURE



Vol.2

女性活躍を阻害する「戦後の成功体験」

「旧来型モデル」から脱却を

保育所でも託児所でもない新業態を生み出し、働くママの支持を集めるママスクエア。『保険料を半分にして子育て世代を応援したい』との思いでライフネット生命保険を起業した出口治明会長が六本木ヒルズ内のオフィスを訪ね、女性活躍のカギを聞いた。

構成・Wedge編集部 写真・山本宏樹 Hiroki Yamamoto

藤代 聰 Satoshi Fujishiro

ママスクエア（東京都・港区）代表取締役。1966年、東京都生まれ。リクルートフロムエー（現リクルートジョブズ）入社。37歳で退職後、親子カフェ「スキップキッズ」創業。2014年12月より現職。

女性の働き方が多様化している中、保育所以外の子どもの受け皿も必要だ

出口 ママスクエアは、育児中のママたちが子どもの傍で安心して働けると運営されているが、このビジネスを始めたきっかけを教えていただきたい。

藤代 もともとカフェと保育スペースがセットになった「親子カフェ」という業態を開いていたが、子育て中のママたちに非常に好評だった。そこで、今度はオフィスと保育スペースをセツ

トにした業態はどうかと思った。ママたちも保育所に子どもを預けなくて済むし、企業の人手不足も解消できるので、双方の課題を解決できると考えた。ママたちが遠くの仕事場に行くのではなく、仕事場をママたちのところにもってくる、という発想だ。

オフィスでは、窓の向こうに子どもを見る事ができるので、既存の保育所でも託児所でもない新たな業態

トになる。保育士などが常駐しているが、保育料は無料だ。

出口 実際に事業を始めてみて、どのような反応があつたか？

藤代 子どもの様子を見ながら仕事ができるという求人情報を出したところ、50人の募集に対し300人以上の応募があり、働きたくても働けないママたちのニーズが想像以上で驚いた。面接に来たあるママからは、涙を流し

いることになる。保育士などが常駐しているが、保育料は無料だ。

出口 実際に事業を始めてみて、どの企業では小さな子どもがいると面接で退職した女性が再就職することがあるといふ現状だと聞き、育児で退職した女性が再就職することが難しい境遇にあることを痛感した。

応募の中には、大手企業での豊富な経理経験があるなど優秀な方も多く、仕事に対する姿勢も真摯だ。育児中というだけで面接にすら進めないと

いう状況では、企業にとつても多くの機会損失が生じているはずだ。今後も働く意欲のあるママたちの雇用を創出できるよう、様々な展開を考えている。今は5店舗合計で、約450人のママたちが働いている。

出口 450人のママに希望を与えていることは素晴らしい。肝心の仕事はどういうに作っているのか？

藤代 当社は入力業務などの事務作業や電話営業などの業務を企業から請け負っており、働きたいママとのマッチングを図っている。ママたちが当社で働くメリットは2つある。1つは、仕事をも保育も職場で完結するので、仕事に専念できること。もう1つは、当社で経験を積んだママたちが、次に就職活動をするときに、例えば履歴書に「ウインドウズ10を使って大企業から請け負った電話営業の仕事を5年やってきた」と書くことができるので、子育て期間中もブランクなく働いてきたことを直接でアピールできることだ。

藤代 法的には保育所でも託児所でもないが、将来的に新たな規制がかかる可能性は十分にあり、危惧している。今後の規制強化に備え、念のため保育スペースの広さや保育士の人数、避難経路などを認可外保育所の基準に合わせている。「消費者目線」に立つて経営することで待機児童を減らし、育児中のママの雇用を生むなど保育の形を進化させてきた。企業からは特に郊外で「連携したい」という引き合いが多いが、残念ながら保育業界からは歓迎されない動きもある。

のママたちも、このサービスによって、子どもと一緒に通勤して、働くことが出来るようになる。育児中の女性の大半は、職場を退職して子どもを育てたり、保育所に預けたりしているが、職場に子どもを連れて働くという選択肢も本来あつて当然だと思う。

ただ、一つの企業だけで保育スペースを確保し、子どもの傍で働くという「職住近接」を実現することは難しい。だから複数の企業が集つて共同オフィスを作ることで、いわば福利厚生事業の一部をアウトソースするというアイデアだ。この仕組みは非常に社会的意義があると思う。

「アメリカに追いつき追い越せ」といって「アメリカに追いつき追い越せ」といふ企業が日本をけん引していた頃は、大企業が「人民公社」のように社員食堂、社宅、保養所に至るまで、ありとあらゆる福利厚生を自社で完備していた。しかし現在は、2次産業からサービスを始められた。子どもの預け先が見つからずに育休から復職できない多く

にしにくい社会・経済構造だと感じているが、例えば政府の規制や指導方針などで気づかれたことや、懸念されていることがあるか？

出口 御社は郊外型に続き、六本木ヒルズ内に保育スペース付きのオフィスを作り、複数の企業に貸し出すサービスを始められた。子どもの預け先が見つからずに育休から復職できない多く

**企業が寄り集まつて
福利厚生をアウトソースする**

なるほど。日本は子育てが非常に厳しい社会・経済構造だと感じているが、例えば政府の規制や指導方針などで気づかれたことや、懸念されていることがあるか？

専業主婦になることを推奨するような社会や企業の仕組みは直ちに変えるべきだ



出口治明 Haruaki Deguchi

ライフネット生命保険代表取締役会長。1948年生まれ。京都大学法学部卒業後、日本生命保険に入社。ロンドン現地法人社長などを経て、ライフネット生命保険創業。近著に『世界一子どもを育てやすい国にしよう』（共著、ウェッジ）。



藤代 聰 Satoshi Fujishiro

ママスクエア（東京都・港区）代表取締役。1966年、東京都生まれ。リクルートフロムエー（現リクルートジョブズ）入社。37歳で退職後、親子カフェ「スキップキッズ」創業。2014年12月より現職。